

シリーズ
ここに闘いあり 4

原爆症認定訴訟の判決まちかに



原爆症認定訴訟の原告団のみなさん

被爆61年、もう待てません!!
すべての被爆者に勝利の春を

が大阪地裁に提訴しましたが、全国のトップをきって昨年の12月に結審し、この4月から連休明けにも判決が出されようとしています。

策をとっているからです。被爆者はこれまでも認定制度の改善を求めて、個々に提訴し、大阪高裁、東京高裁、最高裁などすべて勝利を勝ち取ってきましたが、国はその判決を受け入れず、実態にあわない認定基準をいまだに変えていません。こうした状況のなかで、多くの被爆者たちが、「原爆症と認定してほしい」

めで、被爆の苦しみから救
れられるのです」と、強調
しました。また、集会で
平和を考え学んでいる青
たちが、集団訴訟の原告
なった被爆者のみなさんを
紹介していきました。

全国で169人
近畿で13人が提訴

苦しんでいます。国には被爆者の病気を「原爆症」と認定する制度があります

と残された人生をかけて、団訴訟に立ち上がったのです。

く、保健所など公的機関への期待は大きくなっています。「件数の低下」は、この間にレントゲン検診車をどんどん削減し、検診の有料化や事業を規制してきました結果です。

大阪府は結核の発生率全国第1位、がんなどの病気も高く、全国でワーストワンの健康実態です。レントゲン検診車「はと

号」の削減は結核対策や、大阪府民の健康に重大な影響を与えることになり、許すこととはできません。不健康都市からの脱却へ、対策の強化こそすべきです。

間の紹介や、仲間を増やすところの提起もおこない、恒例多彩な景品があたる「名物餅つき」では参加者と会場が大きい、沸きました。



地域医療に力を発揮している
レントゲン検診車「はと号」



大阪府の保健所の ひとつ、八尾保健所

レントゲン検診車 「はと号」の推移	
1989年時	全22保健所に各 1台、 22台配置
1990年	7台削減し15台に、 5保健所に集中配置
2003年	3台削減し12台に
2005年	4台削減し 8台に

大阪府にはいま、5カ所の保健所（豊中、茨木、寝屋川、藤井寺、岸和田）に8台のレントゲン検診車「はと号」が配置されています。保健所に配置されたレントゲン検診車はこれまで、結核患者や家族の検診、小規模事業所にはたらく人たちの検診などで重要な役割をはたしてきました。また、昨年は、社会的な問題となつたアスペルト対策でも、レントゲン検診車「はと号」は10月から12月にかけて大阪府下の市町村に出向き、

「肺がん検診」を実施し、元老事者、家族、地域住民など100人以上が受診するなど、地域医療に欠かせない重要な役割をはたしています。

それにもかかわらず、この間大阪府は、1989年当時に2台あつたレントゲン検診車「はと号」を毎年のように削減し続けてきました。そして、今回、一挙に8台から2台に削減しようととしています。

大企業は社会的責任をはたせ
ボウキョウセイヲソシイサヘ



大阪市内の各労働組合が集結した春闘宣言集会

今月のキーワード

国民投票法案

今国会で最も大きな焦点となる法案が憲法改正への手続きを定める「国民投票法案」です。自民、公明の与党はこの国会での成立をねらっています。憲法は第96条で、改正手続きについて、「各議院の総議員の三分の二以上の賛成」で発議、さらに、「国民投票で過半数の賛成」が必要としています。投票資格年齢、投票方式、実施されるさいの報道のあり方など、与党間でも、意見が食い違っています。

今月のキーワード

60歳の定年後の雇用延長が事業主に義務づけられる「改正高齢者雇用安定法」が4月から施行されます。厚生年金の支給開始年齢が引き上げられるのに伴い、サラリーマンが65歳まで働き続けられることをもとめて作られたものです。定年を65歳未満としている企業は、①定年の延長②継続雇用制度の導入③定年制の廃止、のいずれかの措置を講じなければなりませんが、罰則はありません。